

## ● あの日から4年「福島の子どもたちの今を知る」

福島第一原子力発電所の事故から4年が経ちましたが、福島で暮らす子どもたちは今も厳しい環境に置かれています。

7月15日（水）日立システムズホール仙台において、フォトジャーナリストの広河隆一さんを講師に「福島の子どもたちの今を知る」学習会が開催され100人が参加しました。

広河さんは、チェルノブイリを事故以来25年以上に渡って取材し、救援活動を行っています。福島第一原発事故の後、主に日本の原発や放射能に関する諸問題取材するかわら、福島の子どもの救援活動を行っ

ています。

はじめに、2014年に琉球放送が制作した「ようこそ 球美の里へ～原発事故から3年 福島と沖縄～」を上映し、福島の子どもたちの健康回復を目的に2012年3月沖縄県久米島に設立された「沖縄・球美の里」の様子を紹介しました。

NPO法人「沖縄・球美の里」は、福島の子どもたちの保養施設です。福島の子どもたちを無料で受け入れ、2～3週間保養します。子どもたちはストレスのない環境でのびのびと過ごすことで笑顔が増え、顔色がよくなり元気になって帰って行きます。



フォトジャーナリストで「沖縄・球美の里」理事長の広河隆一さん

保養が子どもたちの免疫力を高め、健康回復に効果を表わしているということでした。

会場では、チャリティグッズや書籍の販売、募金が行われました。多くの方の協力があり「沖縄・球美の里」の活動支援にもつながりました。

（生活文化部 佐藤啓子）

## ● 「2015年度 食のみやぎ復興ネットワーク全体会」

7月3日（金）仙台勝山館において、「2015年度食のみやぎ復興ネットワーク全体会」が開催され、107団体250人が参加



宮本弘代表幹事による活動報告「これまでの取り組みと今後の進め方について」

しました。

全体会では、宮本弘代表幹事による活動報告を行い、これまでの活動を通じて被災地の復旧復興に果たしてきたネットワークの役割を振り返りました。

また、学識経験者（東北大学大学院農学研究科冬木勝仁准教授）、農業者（JA全農みやぎ管理部都築祐一部長）、水産業者（株式会社仙台水産熊谷純智社長）、それぞれの分野から、震災からの復興状況と抱えている問題点について発言して頂きま

した。

また、これまでコープ東北産直推進事務局がネットワークの事務局機能を担ってきましたが、今後はコープ東北の子会社（株式会社東北協同事業開発）が担当することになりました。

食のみやぎ復興ネットワークは引き続き、みやぎの食産業の復興を応援し、地域経済振興に寄与して参ります。

（食のみやぎ復興ネットワーク事務局 藤田孝）

## 大学生協東北事業連合

### ● セケ浜学習支援ボランティア活動

東日本大震災以降、大学生協東北ブロックでは、宮城県セケ浜町でのボランティア活動を継続的に行ってきました。

昨年度は、大学生による月に一度の学習支援ボランティアを行ってきましたが、受け入れ先であった地元のボランティアセンターの撤退により、今後の学習支援の在り方を検討してきました。

今年4月からセケ浜町の復興に貢献している「レスキューストックヤード」というNPO法人が新たな受け入れ先と決まり、学習スペースを設けたバス「きずな号」を開放して、学習支援活動を行うことが出来るようになりました。

6月の訪問では、子どもたちとの遊びを通して、「きずな号」と大学生のボランティアを知ってもらうことから始めています。東日本大震災から4年が過ぎた今、被災地にとっての必要な支援とは何か、その中で大学生にできることは何かを考えながら、今後も活動を継続して行きます。



学習スペースのある「きずな号」



まずは遊びながら仲良くなる

### ● 福島被災地訪問

6月14日(日)岩手、宮城、山形から38人の学生、教員、生協職員が参加し「福島被災地訪問バスツアー」が行われました。

訪問地域は、東京電力福島第一原発の事故による放射能汚染被害を受け、避難生活を余儀なくされた福島県沿岸地域。

常磐自動車道を南下して行くと、放射線量の表示板が見えます。放射線というものをリアルに感じる瞬間です。富岡ICから常磐線富岡駅に向かう途中では、福島第一原発から東京への送電線が延々と続いているのを見ることが出来ました。富岡駅前には線路を覆う雑草、破壊された駅前ホテルや民家などがそのまま。大熊町、双葉町、浪江町は国道で封鎖されており、「原子力明るい未来のエネルギー」の看板だけが双葉町の入り口に掲げられていました。

常磐線の開通準備が垣間見える小高駅周辺、南相馬で活動する「みんな共和国」の「37Cafe(みんなカフェ)」という子育て支援活動など生活や活動が再開している地域と、まだ手つかずの地域。福島沿岸にある異なる状況の中で、復興と再生は、まだまだ遠いということを学んだ被災地訪問でした。



いたるところに除染のフレコンバッグが...

### ● 「未来の大学生応援募金」仙台会館バザー

7月21日(火)「未来の大学生応援募金」の一環として、大学生協仙台会館でバザーを開催しました。バザー実行委員会は、東北事業連合・東北事業連合労働組合・大学生協連東北ブロック・大学生協みやぎインカレの4団体で準備してきました。栃木の新鮮採れたて野菜、弘前大生協アップルケーキ、みやぎ生協復興互理そば、仙台会館の生協職員提供品やお菓子付コーヒーなどが並びました。

来場者数は約60人、バザーの利益は18,622円でした。すべて「未来の大学生応援募金」への募金に充てられました。



農家直送新鮮野菜



淹れたてコーヒーのカフェも

(大学生協東北ブロック事務局 五十嵐のり子)